総長挨拶



はじめに

東北大学は、東京、京都に次ぐ3番目の国立大学として 1907 年に「杜の都」仙台の地に創設され、今年で 115 周年を迎えました。また今年は、既に開設されていた理学部、医学部、工学部に加えて、1922 年に法文学部が設置されたことで、本学が人文社会系を含めた「総合大学」としての歩みを始めて 100 年という節目の年に当たります。

現在、10 の学部と 15 の大学院、3 の専門職大学院、6 の附置研究所、病院、附属図書館に加え、教育研究に携わる多くの機構やセンターを有する日本を代表する総合研究大学として発展を続けています。

東北大学の３つの理念

本学は創立以来、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の理念を掲げ、社会を先導する人材の育成と新たな価値の創造に取り組んできました。

「研究第一」は、初代総長・澤柳政太郎が最初の入学式で「我東北大学はこの点（研究）に於いては（世界の）何れの大学にも退けを取らざる覚悟なり」と述べたことが源流となっています。本学は研究大学と自ら規定したわが国で最初の大学なのです。また、世界に認められる卓越した研究成果があってはじめて、本学が提供する教育が社会からの信頼を集めるという意味でもあります。イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表する THE 世界大学ランキング日本版で、本学は３年連続 1 位を獲得しました。本学の卓越した研究成果を基盤とした教育実績・教育環境が、外部からも高い評価を受けていることの証しと言えましょう。

「門戸開放」は、今の言葉で言えばダイバーシティ、すなわち本学は多様性、公平性、包摂性を先駆的に進めてきた大学です。設立当初から、旧制高校以外の出身者にも広くその門戸を開き、1913 年には、我が国の大学として初めて女子学生 3 名の入学を認めたことで、日本初の「女子大学生」がこの東北大学で誕生しました。さらに、中国の文豪であり思想家の魯迅が本学医学部の前身である仙台医学専門学校で学んでいたことは広く知られています。出身校や性別、国籍等にとらわれず、幅広く優秀な人材を受け入れてきた本学の「門戸開放」の理念は建学の礎として 1 世紀以上の長きにわたって実践されてきました。本年４月には、全ての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての構成員のダイバーシティが尊重されるよう、「ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）推進宣言」を発出することで、「門戸開放」の理念をさらに深めています。

「実学尊重」は、新たな社会価値の創造です。自然災害やパンデミックなどの予測困難な事象への対処、カーボンニュートラルや人口問題、さらには地政学的な変化など人類社会の在り様そのものに関わる課題解決には、最新の科学・技術と共に人文社会科学の知を駆使し、多様なステークホルダーとともに未来価値を共創する大学の力、すなわち総合知に基づいた「実学尊重」が求められています。本学は創設時から民間や自治体から多大な期待と支援を受けて発展してきた「社会とともにある大学」であり、その「社会との共創」の重要性を全構成員が改めて実感することになったのは 2011 年の東日本大震災でした。震災直後から、被災地にある総合研究大学として復興と新生を目指した取り組みを推進し、大学が有する個々の専門力に加えて、地域社会、民間セクター、国際社会とも連携することで復興の羅針盤となり、駆動力を発揮する中で、「社会との共創」というアイデンティティをさらに深めてきました。コロナ禍においては、大学病院が地域の中心となって東北大学（宮城県・仙台市）ワクチン接種センターを開設し、大学拠点接種と並行して県民のワクチン接種の加速化と地域医療に貢献してきました。SDGs、コロナ後のグレートリセット、カーボンニュートラルなど人類社会共通の課題に挑む総合研究大学として社会とともに発展する姿を示すため、2021 年に宣言した「Green Goals Initiative」のもと、骨太の産学共創をオンキャンパスで進める産学共創研究所、社会の課題解決を先導するスタートアップなど、社会に開かれた共創を推進しています。

成長する公共財として、課題解決プラットフォームとして

このように多様な役割を担うこれからの研究大学は、「成長する公共財」へと発展していく使命があります。大学経営の自由度を高めることにより、教育研究を含む諸活動を拡張して社会と世界に貢献し、その成果の価値化を図って経営資源を獲得するとともに世界から人材を集めて育成することによって、基礎分野も含めた研究の一層の卓越性を追求する、このような新たな大学モデルを確立することを目指しています。

「成長する公共財」へ向けた戦略的経営の一例として、資金を自己調達して先行投資を行うという国立大学では前例のない経営判断による青葉山新キャンパス整備事業があります。農学研究科、環境科学研究科、災害科学国際研究所、国際集積エレクトロニクス研究開発センターなどが立地する同キャンパスでは、2023 年には、次世代放射光施設（愛称ナノテラス）が稼働し、同施設と連動して産学共創を展開するサイエンスパークも始まります。東京ドーム 17 個分の広さをもつ広大なキャンパスを世界に開かれた課題解決プラットフォームとすべく歩みを進めています。

私たちの活動は、自然や人間への理解を深めること、得られた知見を活用すること、それらを総合した知を土台にしてより大きな社会的課題を解決に導くこと、さらには多彩な才能を見いだし伸ばすことなど多岐にわたります。これらの卓越した価値創造の営みを一層深めるために、未来を見据え大学の変革に取り組んでいます。

最後に

東北大学が今後一層社会に貢献するためには、地域、産業界・経済界、自治体や国などの公的機関、同窓生を含めた本学関係者など、多様なセクターからのご支援、ご協力が欠かせません。本概要には本学の教育・研究活動や社会貢献、特色ある研究など、本学の最新の情報が記載されています。また、東北大学ホームページ（https://www.tohoku.ac.jp/japanese/）では、大学の最新情報をお届けしています。各位におかれましては、本学のさらなる挑戦への決意にご理解をいただき、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年（2022 年）８月
東北大学総長　大　野　英　男